

# 08 設計演習 II A 住宅設計 開かれた家

開講年次：学部2年生第3クオーター

[担当教員]

山崎寿一（教授）近藤民代（准教授）山口秀文（助教）  
島田陽（タトアーキテクツ／島田陽建築設計事務所）山隈直人（kt一級建築士事務所）  
[Teaching Assistant]  
長田遙哉（A69）高坂啓太（A69）幸田梓（A69）

## ■課題概要

設計課題のテーマは「開かれた家」とする。住宅は家族だけで住み、生活をするだけの器なのか。従来型の住宅パラダイムにとらわれない新しい住宅を構想して提案してほしい。コミュニティカフェを併設した住宅、ワークスペースを備えた住宅、他者と住まうシェアハウジング（但し、家主が居住していること）など、社会や地域への開き方を各自で想定する。

居住者構成やライフスタイルは設計条件として、各自が具体的に設定する。単身や親族以外の同居も可とする。居住者構成とライフスタイルに応じた空間構成や周辺環境を活かした設計を行う。

構造・階数は、自由に想定してよい。

所要室等は、標準家族のための専用住居として必要な室だけに留まらず、家族以外の者による居住や利用等、新たな暮らしへの提案も含むものが望ましい。

## ■敷地：選択制とする。

・敷地 A（約 230 m<sup>2</sup>）：阪急六甲駅北側。斜面の住宅地の一画。幹線道路沿い。第1種中高層住居専用地域（建蔽率60%、容積率200%）。

・敷地 B（約 160 m<sup>2</sup>）：八幡神社の南側。参道沿い。第1種中高層住居専用地域（建蔽率60%、容積率200%）。

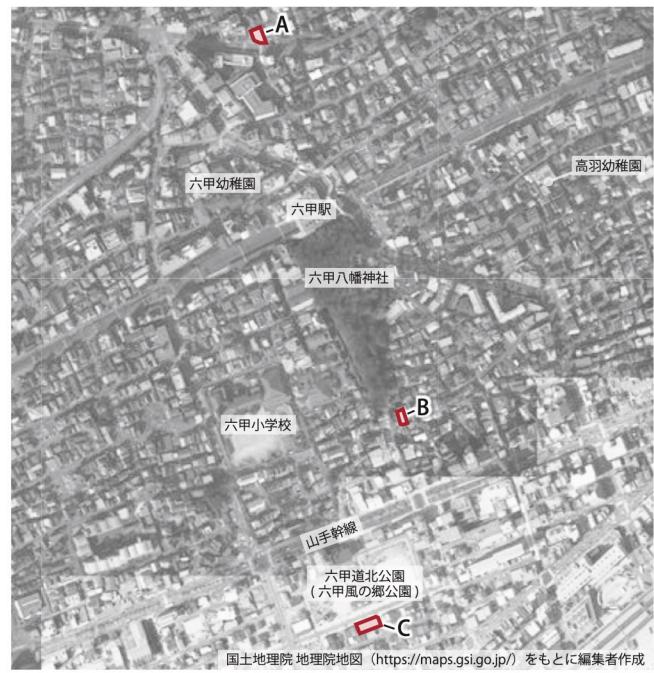
・敷地 C（約 300 m<sup>2</sup>）：阪神・淡路大震災土地区画整理事業区域内。南側に六甲道北公園。第1種住居地域（建蔽率60%、容積率200%）。

## ■提出物・用紙

(1) 所用図面：配置図兼1階平面図1:100、各階平面図1:100、立面図1:100、断面図1:100、模型写真、外観スケッチ、透視図、

## 設計主旨・面積表

(2) 用紙:A3用紙（仕上げ、彩色等自由）



国土地理院 地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに編集者作成  
課題敷地

## 林苑の家

千馬生吹

建築家の父と珈琲が趣味の母、小学生の息子の家を北側が公園に面した住宅地に設計した。母が営むカフェを併設した平家とした。大きな屋根に穴を開けて中庭を作り、そこに多様な植栽を取り入れ林に見立てた。ファサードを角材で覆い細木が連立した林苑のようにすることで周囲の雰囲気と調和を図った。



## 呼吸する社

岩田陽正

環境負荷を抑え、自然と共生しながら暮らす家の提案。季節に応じて部屋を使い分け、開口部を調節し自然換気を促す。外部環境に対して開かれたこの家は、自宅で働く住人に五感を刺激する豊かな暮らしをもたらす。その営みは地域へと伝播し、この街の“もり”として機能する。



1. problem 自然との向き合い方

2. concept 季節とともに人も移る

3. site 殿地と風向

4. member 家族構成

5. curtain カーテンがもたらす効果

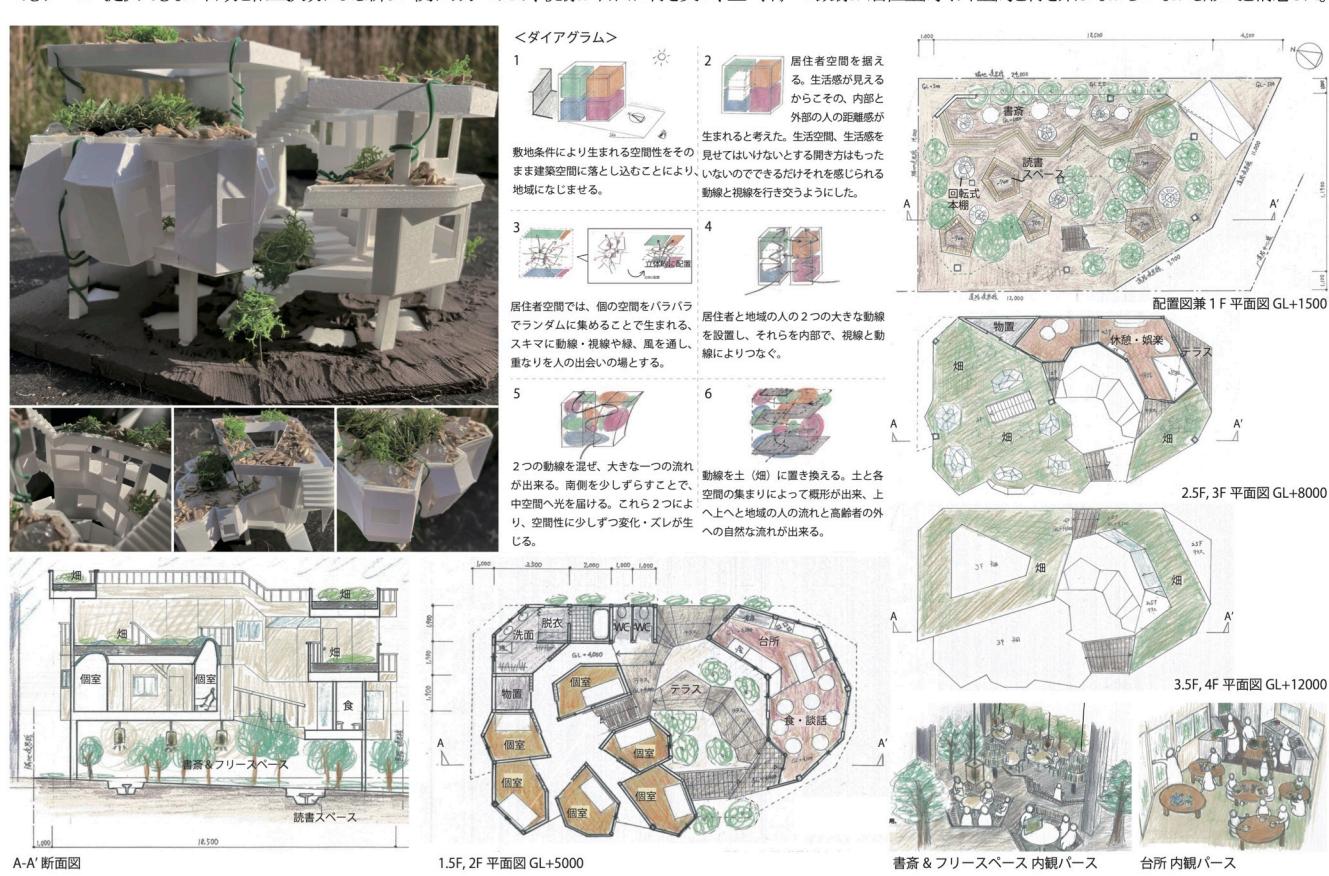
近代以前の住家は、自然環境を遮断し、室内を快適な空間に保つことで快適な環境を作り出しました。この抑制的で単調な中のでの生活は豊かであると言えるのだろうか。自分で過ごす時間が多くなった今、環境へ貢献をかけ自然の要素を受け入れる、住人が能動的に行動してこの家を住みこなすことで、季節の移り変わりを感じ取ることがができる。

家族が過ごす時間は季節によって変わるわけだ。季節に応じて使う分かれ、また、人間が衣替えをするように、外気流に応じて窓やカーテンを開閉し涼しく自然環境を受け入れる。住人が能動的に行動してこの家を住みこなすことで、季節の移り変わりを感じ取ることがができる。

## 土の中で暮らす

石黒萌夏

高齢者と暮らす大学生の下宿生活での支え合いに加え、子ども食堂や地域イベントの中で、世代を超えて居住者や利用者は相互に価値提供ができる。単なるシェアハウスでもサービス提供でもない自助と相互扶助による新しい関わり方のため、視線が自由に行き交い、土（畠）の動線が居住空間や外空間を行き来しながらつながる形式を構想した。



A-A' 断面図

1.5F, 2F 平面図 GL+5000

書斎 &amp; フリースペース 内観/パース

台所 内観/パース